

今年で7回目を迎えた『リサイクル祭り』を葦山時代劇場ひだまり広場で開催しました。

同祭りは、環境について楽しく学ぶことを目的に開催。『ごみを出さない』というテーマで開催した今年度は、会場内でマイバッグを持参している人も見られました。

ごみとして出された不用品を整備して、無料で配布する抽選会には、掘り出し物を目当てに多くの人たちが列を作りました。

会場内ではそのほかに、フリーマーケットや竹細工の工作教室、生ごみたい肥を使った野菜づくり相談コーナーなども設けられ好評でした。

10/29  
環境について楽しく学ぶ  
リサイクル祭り開催



フリーマーケットやステージイベントでにぎわう会場

11/5-6  
3千7百人を幻想的空間へ  
葦山竹灯籠まつり開催

放置竹林の間伐材を竹灯籠として利用した『葦山竹灯籠まつり』を、江川邸を会場に開催しました。

地元団体『葦山金谷里夢くらぶ』やNPO法人『日本の竹ファンクラブ』が、このまつりのため約4千本の竹灯籠を制作。観覧コースの竹林



4,000本の竹灯籠が幻想的な空間を演出、来場者を魅了

PHOTO  
ぎやらりー



市長賞に輝いた『恐竜の世界』

1つの作品を10～15人が協力して制作

10/30  
折り紙で貼り絵制作  
市子連交流事業

市内の子ども会交流、異学年交流を目的に、伊豆の国市子ども会連合会主催『みんなであそぼう』で、おりがみを使った作品（貼り絵）制作が長岡体育館で行われました。

この日は、子ども会19チーム250人が参加。作品は模造紙1枚に、おりがみをちぎり貼り付けました。子どもたちは上級生の指導の下、一丸となって制作に励みました。

今年のテーマは『ぼく・わたしの行きたいところ』。完成した作品は、子どもならではのさん新な仕上がりとなりました。

審査の結果、市長賞には長岡区別所の『恐竜の世界』が選ばれました。



10/23  
下駄で華麗にステップ  
下駄ダンスコンテスト開催

下駄を履いてダンスを踊る『下駄ダンスコンテスト』（伊豆の国市観光協会主催）が、アクシスカつらぎで開かれました。県内から5組38人が出場、会場内に下駄の音を響かせました。

今年で6回目を数える同大会。下駄を履いていけば、ダンスのジャンルは問わず出場することができ、5歳から60歳代まで幅広い年代の出場者が次々と登場し、華麗なステップを披露しました。

また同日、下駄を履いて温泉街を歩く『下駄ウォーキング』や『温泉まんじゅう祭』も開催。伊豆長岡温泉が下駄の音でにぎわいました。



優勝したキヨミ・ジャズダンススクール（伊東市）

11/3  
感謝の言葉がうれしくて  
葦の花が静岡県知事表彰を受賞



30年以上にわたり、地域の福祉向上に貢献している『葦の花』

葦山地区を中心に、福祉向上に貢献しているボランティア団体『葦の花』が、静岡県知事表彰を受賞しました。

同団体は昭和57年に結成。葦山福祉・保健センターを活動拠点に現在85人の会員がいます。受賞は30年以上にわたり、高齢者への給食・配食サービスや福祉施設での支援などのボランティア活動を続けたことに対する功績が認められたもの。

代表の竹内みゆきさん（四日町）は、「感謝の言葉がうれしくて励みになる。それが長く続けられる秘訣」と、笑顔で話してくれました。

10/24  
市内新聞販売7社が協定  
安全安心見守りネットワーク

日常の事業活動を通して、高齢者などに異変がないかを見守る『安全安心見守りネットワーク』に、市内で事業活動をしている新聞販売社と市が協定を締結しました。



安全で安心な生活に向け、見守りネットワークを締結

11/6  
まちの魅力を再発見  
歴史探訪・垣庵フェア開催

今年が初めてのイベント『垣庵フェア』を江川邸駐車場を中心に開催しました。

同日はあいにくの天気にもかかわらず、会場には家族連れを中心に多くの市民らが詰めかけました。ステージでは、歴史作家の加来耕三さんが江川垣庵公をテーマにその功績や史実などを紹介しました。このほか、伊豆の国音頭保存会による農兵節などが披露されました。

また、会場では垣庵公と所縁のある東京都板橋区の西洋流火術鉄砲隊保存会による迫力ある砲術演武が行われ、観衆から大きな歓声が上がりました。



江川垣庵公が師事した高島秋帆の西洋流砲術